

南部（１）川越小学校 適正化方策案の検証評価 （事務局評価案）

方策案	南部 A (春日小と統合)	南部 B (開成小と統合)	南部 C (山之上小と統合)	南部 D (桜丘小と統合)
	ア (統合校：春日小)	ア (統合校：開成小)	ア (統合校：山之上小)	ア (統合校：桜丘小)
特に有効な点				
課題点など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保有教室が30教室しかなく、増築等が必要(3教室程度)。</li> <li>・最長通学距離が2.6kmとなる地区がある。通学路の一部区間でバス通学の検討ができるが、低学年児童の適用には課題がある。</li> <li>・一部の地区で開成小の方が近い。</li> <li>・現状も同様であるが、一部の地区は天野川や交通量の多い府道を横断して通学しなければならない。</li> <li>・統合校の校区は歪な形状となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保有教室が30教室しかなく、増築等が必要(1教室程度)。</li> <li>・最長通学距離が2.1kmとなる地区がある。</li> <li>・一部の地区で通学路が春日小・山之上小校区を通過する。</li> <li>・現状も同様であるが、一部の地区は天野川や交通量の多い府道・市道を横断して通学しなければならない。</li> <li>・一小一中にあたり、中学校通学区域の変更が必要である。中学校を第四中とした場合、同校は一時的に大規模校となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保有教室が28教室しかなく、増築等が必要(5教室程度)。</li> <li>・最長通学距離が3.1kmとなる地区がある。通学路の一部区間でバス通学の検討ができるが、低学年児童の適用には課題がある。</li> <li>・一部の地区で通学路が春日小・開成小校区を通過する。</li> <li>・現状も同様であるが、一部の地区は天野川や交通量の多い府道・市道を横断して通学しなければならない。</li> <li>・統合校の校区は歪な形状となる。</li> <li>・一小一中にあたり、中学校通学区域の変更が必要である。中学校を第四中とした場合、同校は一時的に大規模校となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統合校は平成35年度まで大規模校となる。</li> <li>・保有教室が27教室しかなく、増築等が必要(8教室程度)。</li> <li>・最長通学距離が2.7kmとなる地区がある。</li> <li>・一部、通学路が他市の区域を通過することが合理的な地区がある。</li> <li>・一部の地区は天野川や京阪電鉄交野線、交通量の多い府道を横断して通学しなければならない。</li> <li>・統合校の校区は歪な形状となる。</li> <li>・一小一中にあたり、中学校通学区域の変更が必要である。</li> <li>・また、変更は平成25年度までの指定中学校に戻る地区がある。</li> </ul>
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各方策とも課題が多い中、A案・B案はやや課題が少ない。</li> <li>・A案とB案を比較すると、B案はA案に比べて最長通学距離や保有教室数、校区の形状等の点において、課題の度合いは低いことから、B案が総合的に有効な方策であると考えます。</li> </ul>			